

JCFの福音理解

エペソ2章2-10節
2018,7,29 HKJCF

概観

「あなた方は、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」 エペソ10:7

- 1、JCFの福音理解の特徴
- 2、過去/未来以上に現在の適用
- 3、福音理解と教会理解の中心としての主イエス・キリスト

I 認罪の恵み v1-6

- 1、認罪は断絶/無能力/無答責
- 2、サタン/肉/世は自己の偶像化
- 3、死とは霊的断絶/無能力/無答責
- 4、愛と義は順番の概念ではなく
神様のキリストにおける同一の本質
- 5、原罪：存在そのものの罪
個々の罪：具体的罪の取り扱いには
知恵が必要⇒まず認罪/神様の義と愛/
神様のご計画 ローマ8:26-30

II 救いの恵み v9-10

- 1、パウロの福音理解
 - ①キリストの救いを死といのちの概念で説明するパウロ
 - ②主との合一が救いの本質
 - ③救いの恵みを受けることが証し
- 2、人間からは天国へ至る義は1mmも出てこない ローマ7:21-8:2
- 3、認罪/救済の結論 ローマ3:20-4
⇒認罪/救済の恵みが証しの中心

III 成長の恵み v9-10

- 1、成長の重要性
 - ①救い：キリストの愛⇒主に過去
 - ②再臨：すべての完成⇒主に未来
 - ③成長：現在の生活の中でのみ言の適用⇒結実
- 2、創造のいのちの回復=永遠のいのちの授与
←キリストとのいのちを共有する交わり
ヨハネ15:4-5
- 3、パウロは良い行いをキリストのいのちの働きと創造論に根拠を置く
⇒いのちの原理、種、結婚の譬え
w.ニー イエス様 パウロ

IV 結論

- 1、認罪は断罪ではなく=神の恵み
これは、責めることのないキリストの十字架の恵みにより、信仰で受け取る現実と自己の正しい認識
- 2、救いは自己救済ではなく、キリストの十字架のみ業のみによる=良い業への責任は肉の私にはない
- 3、良/善 い行いはキリストの聖霊のみ業=いのちの働き 神様の似姿としての人間のデザイン 創2:7